

第4次高梁市教育振興基本計画策定検討委員会（第4回） 要旨

日 時：令和8年2月13日（金）

10：00～11：20

場 所：高梁市役所 3階大会議室2・3

<出席委員> 11名

井勝会長、日名副会長、藤森委員、片岡委員、太田委員、森本委員、三上委員、那須委員
常浦委員、矢動丸委員、松本委員 ※欠席：菅田委員

<事務局> 8名

福本教育長、伊丹教育次長、福原参与、藤井教育総務課長、三宅こども教育課長
亀山社会教育課長、野口スポーツ振興課長、羽井佐

1 開 会

2 会長あいさつ

本日は、第4回目の検討委員会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

教育は国づくりの基本であり、その成否は高梁だけでなく、より良い社会を築けるかどうかにも大きく関わっていると考えています。

こうした中、第4次高梁市教育振興基本計画につきましては、委員の皆さまに8月からこれまで3回にわたりご討議いただき、このたび成案として取りまとめることができました。

私は、高梁市総合計画の委員長も務めておりますが、教育分野においては日頃から先生方が積極的に議論を重ねてこられ、初期の段階から貴重なご意見をいただきました。その積み重ねにより、たいへん良い成案ができたものと感じています。

今後は策定から実施の段階へと移り、計画を実行できるかどうか重要なポイントになります。本日は、この成案を基に、今後の実施にあたってのご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 議 事

(1) パブリックコメントの実施結果について

<委員意見等> ○：検討委員 ⇒：事務局

○ パブリックコメントについては、実施にあたって考慮すべき重要な点を多くいただいていると感じました。計画本文にすべてを盛り込むことは難しいかもしれませんが、今後の実施段階で十分に生かしていただきたいと思います。また、KPIについては、総合計画でも指標設定が難しい部分があると認識しています。何を指標とするかは簡単ではありませんが、KPIの達成だけにとらわれるのではなく、実施段階で総合的に目標達成を目指していただきたいと思います。

(2) 第4次高梁市教育振興基本計画(案)について

第3回検討委員会の意見を基に再検討を行い、総合教育会議での議論や総合計画との整合、さらにパブリックコメントの内容を踏まえた上で、修正した箇所を中心に説明を行った。

<委員意見等> ○：検討委員 ⇒：事務局

- P14の目標指数(いじめの解消率)について、パブリックコメントにもあったように、数値が段階的に上がり、解消率が向上していくという表記に少し違和感を覚えました。政策目標として解消率の向上を掲げることは、対応がより適切になっているという解釈はできると思います。

しかし、現場レベルで考えると、いじめに苦しんでいる子どもたちの問題はその年度ごとの課題であり、解消率が毎年「上がっていく」とするよりも、例えば80%という水準を安定的に維持することの方が、保護者や学校現場にとっては実態に即しているのではないかと感じます。

政策として段階的な向上を目指す意図は理解できますが、学校現場での具体的な改善イメージと「数値を上げていく」という表現が必ずしも一致していないようにも思われますので、数値設定の妥当性について、改めて検討が必要ではないかと思いました。

- いじめを認知し、その行為が止んでいる状態が3か月継続してから解消と判断します。そのため、年度ごとに数値が上がっていくというよりも、その年度の目標値を設定し、それを維持していくという考え方の方が適切ではないかと思えます。

ただ、8割を目指すのか、9割なのか、100%なのかという数値設定については難しい問題です。理想は100%ですが、実際の認知件数と解消状況を踏まえると、現実的には難しい場合もあります。数値のレベル設定については、改めて検討が必要だと思います。「上げる」というよりも、「一定水準を目指す」という考え方が良いと思います。

- いじめの解消率のKPIについては、事務局で再度検討いただき、調整・整理していきたいと思えます。

- 部活動の地域展開について、パブリックコメントでは、「休日の過ごし方に関与するからこそこのジュニハイ・ホリメ」として、学習や家族との時間も充実させる趣旨が示されています。一方、P19には「参加団体を増やすとともに、平日にも拡大していきます」との記載があります。

ジュニハイ・ホリメの「休日の過ごし方を充実させる」という考え方と、「参加団体を増やし、平日にも拡大していく」という表現を続けて記載すると、事業の趣旨が混同されるおそれがあるように感じます。そのため、文章を区切るなど構成を整理した上で、「地域展開を平日にも拡大する」といった表現への修正を検討した方がよいのではないかと感じました。

⇒ 文章が自然につながるよう、検討したいと思えます。

- 図書館に関する指標について、P27では「1人あたり貸出冊数」、P29では「図書館の利用者数」となっており、注釈では「資料貸出サービス利用者数」と「図書館主

催イベント参加者数」の合計とされています。しかし、本を借りずに館内で読書や学習をしている方の利用が評価に含まれていないのではないかとこの違和感があります。

図書館は単に本を貸し出す場ではなく、市民一人ひとりの課題解決や学習を支える場でもあります。例えば、レファレンスサービスによる課題解決なども重要な役割です。貸出冊数中心の指標では、「貸出数至上主義」のようになってしまわないか懸念があります。

個人的な例ですが、私は週に1～2回子どもと図書館に行きますが、本は借りずにその場で10冊ほど読んで帰ることもあります。そのような利用は多いと感じています。こうした利用を何らかの形で指標に含められないかと思えます。

⇒ ご指摘のとおり、市議会でも図書館の利用をどう評価するかは議論になります。入館者数は把握できますが、図書館が交流の拠点機能も有しているため、それをそのまま図書館利用としてよいのかという意見もあります。また、館内読書や学習室利用者は利用者カードを使用しないため、カウントが難しい状況です。職員が常時カウントするのも現実的ではありません。レファレンス利用などは把握していますが、今回のKPIとしては定量的に確実に把握できる指標を採用しました。ただし、数字に表れない利用状況についても、現場の実態を把握し、改善や展開につなげていきたいと考えています。

○ 今回は変更が難しいことは理解しています。第5次計画を考える際の視点として、図書館の定義そのものを整理し直すことが必要ではないかと思えます。図書の貸出の場というだけでなく、「人を育てる場」「人をつなぐ場」といった観点を整理することで、今回お話ししたような指標も含められるのではないかと考えます。

○ 皆様のご意見を通して計画を策定し、今後は実行段階に入ると感じています。まずは、私たち自身がこの計画をしっかりと理解し、現場に落とし込んでいかなければならないと思えます。具体的なことはまだ十分に整理できていませんが、「子どもたちが行きたくなる学校づくり」と掲げられていますので、その点をしっかりと実践していきたいと考えています。

○ P14の目標指数について、「自分にはよいところがあると思う」は全国平均との差、「学校に行くのは楽しいと思う」は児童生徒の割合と、KPIの単位が異なっています。パブリックコメントの11番でも意見がありましたが、それに対する事務局の回答がやや整合していないように感じました。

私は、「自分にはよいところがあると思う」という項目について、アクションプランの中で全員がそう思えること、つまり100%を目指しています。しかし「全国平均との差」と示されると、目標設定の考え方が変わってくるように感じます。各学校の校長もこの計画を見て目標を立てると思いますので、計画が公表される際には、「なぜこの指標設定なのか」という説明があると良いのではないかと考えます。

○ 前回、特別支援教育について「未来志向」という話をさせていただきましたが、今回「合理的配慮」という言葉が入ることによって、障害を社会モデルで捉える考え方を踏まえた内容になっていると感じており、誠実な修正がなされていると受け止めています。今後は、それをどう実行していくかが重要になりますので、実践の部分を頑張っ

ていきたいと思いをします。

- P 2 1 の「高等学校の魅力化」を盛り込んでいただいたことに、高等学校の校長として非常にありがたく思っています。小中学校や地域との連携を踏まえ、高等学校の一層の魅力化に努めていきたいと考えています。

全体としても、これまでの高梁市の教育の強みを継承しつつ、新しい時代に対応した計画になっていると感じています。特に、多様な探究的な学習、地域連携、特別支援教育の充実が印象的です。

特別支援教育では、量的な取組とともに、「自立を目指した特別支援教育を推進する」とあります。本校でも、支援しながらも徐々に手を離し、社会で自立して活躍できる人を育てることを目標としています。量的指標だけでなく、質的な成長を意識しながら計画を実行していくことが大切だと改めて感じました。

- 児童数減少に伴い小中学校の再編が進んでいます。適正配置計画で進められていると思いますが、地域や保護者にとっては、自分たちの学校が今後どうなるのかは非常に関心が高い問題です。人口減少の中で統廃合は避けられない面もありますが、「仕方がない」ではなく、前向きな再編となるよう、十分な説明と意見を聞く場の設定を行い、できるだけ多くの人々が納得できる形で進めていただきたいと思います。学校再編は、高梁市の人口維持や若者定住にも大きな影響を与えたいと思いますので、よろしくお願ひします。

- 私は公民館連絡協議会の代表として参加しています。市内の公民館に対し、これまでの委員会資料や意見を共有し、意見も聞いてきました。今回の計画案についても確認してもらい、良いものができているという意見をいただいています。

ただ、少子高齢化・人口減少の中で、地域の中心となる人材が不足していることが大きな課題です。P 2 6 に「社会教育活動に精通した人材の確保・育成が必要」と記載いただき、地域体験を通じた人材育成が示されていますが、学校再編が進む中で、各地域で人材育成ができるのかという不安もあります。

以前、教育長から「学校がなくなる中でこそ、公民館が力を発揮してほしい」という話を伺いました。私もそのとおりで思っています。ただ、公民館だけでは難しく、市長部局のまちづくり部門や福祉部門（地区社会福祉協議会）などとの連携が不可欠です。教育委員会としても、これまで以上に市長部局と連携して取り組んでいただきたいと思います。

- 地域の歴史や文化に興味を持ち、郷土を愛する子どもたちを育てていただければありがたいです。全体を通して、高梁市の現状に即した、大変良い計画が策定されたと感じております。

- 人口減少や財政状況の中で、どうしても縮小せざるを得ないものは出てくると思いますが、ただ、「減らす」「縮小する」というのは、どうしてもマイナスに捉えられがちですが、施策を実行する運用面では、「せっかく減らすならこうしよう」、「せっかく縮小するなら新しいことをやってみよう」といった、数字はマイナスでも運用はプラスにしていくという発想・マインドが大切なのではないかと思ひます。

学校教育でも社会教育でも、これから様々なアクションが出てくると思いますが、実行する側も、それを支える教育委員会側も、前向きなマインドを持つことで、市民も前向きに動けるのではないかと感じます。私自身もその意識で取り組みたいと思いますし、ぜひそのような意識を共有していただければと思います。

- P20の「ジュニハイ・ホリメ」のKPIについて、パブリックコメントへの回答では、「強制的な参加ではない」とあります。部活動もそもそも強制ではないため、その表現自体は理解できますが、なぜ参加率をKPIにするのか疑問が残ります。

例えば、行政から学校現場へ「参加者を増やしてください」と依頼することになれば、学校としては子どもたちに参加を促すことになります。「休日は学習や家庭の時間を大切にしたい」という子どもたちに対して参加を促していくことは、政策目標と現場での対応との間に自己矛盾が生じることになります。

そのため、参加率を指標にするよりも、参加している子どもたちの「満足度」を指標にする方が、適切ではないかと感じます。また、注釈では「部活動の地域展開は体験格差を解消するもの」とあります。であればなおさら、自由参加と参加率向上という目標との間に矛盾を感じます。今後、具体的な取組を進める際に、学校現場が「参加させなければならぬ」という方向にならないよう、表現を含め、現場との共通認識づくりをお願いしたいと思います。

- 自由参加と体験格差解消という二つの要素が入っているため、KPIとして数値化するの是非常に難しい分野だと思います。その点も含めて検討いただき、実施段階では現場の先生方に丁寧に説明できるようにしていただければと思います。

- 図書館についてですが、高梁市の図書館は全体として利用者数が少ない印象があります。駅前であって便利ですが、2・3階に上がってみても、子どもや大人の利用が少ないと感じます。少しでも魅力づくりができれば、利用者は増えるのではないかと思います。例えば、エレベーター周辺に利用を促す表示を大きく出す、建物内の案内を分かりやすくするなど、小さな工夫でも効果があるのではないのでしょうか。

また、歴史資源についても、松山城跡など観光地への案内や標識が分かりやすくなれば、立ち寄る人も増えるのではないかと思います。駐車場の整備などは経費も必要ですが、観光客も増えている中で、案内表示を充実させることは大切だと感じます。

計画には、教育やスポーツなど様々な施策が示されていますが、子どもたちを守る視点、子どもの声を聞く姿勢も大切だと思いました。

- 部活動の地域展開について、中学校における部活動の在り方を見直す中で、地域に中学生の受け皿をつくっていただくという方向性は重要だと考えています。休日の活動から始まり、将来的には平日も含めた展開になっていくのではないかと思います。活動内容も、スポーツだけでなく、ボランティアや文化・芸術活動など、多様な選択肢が市内に広がり、子どもたちが自由に参加できる環境を整えば理想的です。

参加率についてですが、現在の中学校の部活動参加率は、令和8年度目標値と同程度であり、約3割の生徒は部活動に所属していません。習い事をしている生徒もいると思いますが、詳細な調査はしていません。

地域移行により、活動場所が遠くなる、夜間のみ活動になるといった条件が加われ

ば、参加率を上げることは容易ではないと感じています。令和12年度目標の80%という数値は、達成が難しい印象です。小規模校では競技を成立させるため全員加入を促すこともあります。統合が進み選択の自由度が高まれば、参加率を高めることはさらに難しくなると思います。

来年度秋以降、休日の地域展開が始まりますので、行政と連携しながら進めていきたいと考えています。平日の移行については、どの水準を基準とするのか、今後検討が必要です。ただ、現在スポーツ部所属の生徒が多いことから、平日も比較的早い段階で地域へ移行していく可能性があると感じています。

また、P22の目標指数で「高梁教育の日の研修会に参加した教職員の延べ人数」についてですが、教員数は今後減少していくと見込まれる中で、毎年30人増加という目標は難しいのではないかと感じました。将来の教職員数の推計を踏まえ、指標の見直しも必要ではないかと思えます。

- P10・11ページの情報教育について、1人1台端末の整備は進んでいますが、情報モラルや情報の取扱いに関する教育が十分とは言えません。使いだけでなく、適切な活用や倫理観の育成が今後より重要になります。

次に、グローバル人材の育成についてです。英語教育に偏って受け取られがちですが、本質は「海外の人と対等に渡り合える人間力・人間性」を育てることなので、その点を念頭に施策を進めていただきたいと思います。

P32の人権教育と多文化共生について、外国人が増える中、多文化共生は重要課題です。日本人・外国人と区別するのではなく、「一人の人間として尊重する」という人権教育の視点が不可欠です。実例として、留学生が地域で心ない言動を受けることがあります。政治的な議論の影響もあり、ビザ更新を前に強い不安を抱えている留学生もいます。こうした現状を踏まえ、多文化共生は単なる交流イベントではなく、日常的な接点づくりや市民への啓発を含めた取組が必要だと考えます。

<事務局からお知らせ>

- ・会長と調整の上、修正を行い、最終案を作成する。
- ・計画には、資料編を添付する。
- ・2月18日開催の議会全員協議会で説明を行う。
- ・2月24日開催の教育委員会に議案として提出し、議決後に完成となる。

<教育長あいさつ>

4回にわたるご協議に心より感謝申し上げます。いただいたご意見を真摯に受け止め、議会での説明を経て、市民の皆様にご丁寧にお伝えしてまいります。

この計画策定に関わる中で、大きな期待と可能性を感じています。市民の皆様とともに、この目標に向かって前向きに取り組んでいきたいと考えております。今後もぜひご意見をお寄せください。

4 閉 会

毎回熱心な協議をいただき、ありがとうございました。学校教育の立場からも考えながら参加していただきましたが、皆様が高梁市のことを真剣に考えていらっしゃることを肌で感じました。本計画が市民の皆様にご浸透し、共通の方向性をもって取り組めるようになることを期待しています。本日は誠にありがとうございました。